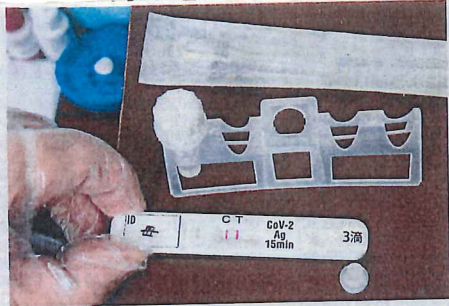


抗原検査キット不足

新型コロナウイルス感染者が急増する中、感染の有無を確認する抗原検査キットの不足が続いている。キットを使って診断にあたる医療機関だけでなく、検査を受けられないことで学校や介護の現場にも影響が広がっており、関係者は危機感を募らせている。

「医療機関に検査キットがなく、症状がある児童らが検査を受けられない」。大阪府東大阪市教育委員会には1月下旬以降、小中学校から相談が相次いで寄せられている。市教委は、こうした児童

品薄状態が続く抗原検査キット



教育・介護現場に影響

濃厚接触待機解除できず

や生徒について、感染者や濃厚接触者とみなして自宅待機とするよう学校側に求め、自宅でのオンライン学習（切り替えている。日高崇史・学校教育推進室次長は「根拠がないまま自宅待機を求めるのは難しい判断だが、学びと感染拡大防止の両立が重要だ」と話す。大阪府都島区の認定子ども園東野田ちどり保育園（園児約200人）では、職員が園外での研修などに参加する際、内外での感染拡大を防ぐためキットを利用する。しかし、在庫はすでになく、業者に注文したが入荷予定は未定という。江川永里子園長は「簡易キットでも少しでも安心感があつた。対策を練らなければならぬが、すぐには難しい」と困惑する。

人手不足が続く介護施設でもキットの不足は大きな痛手だ。大阪市北区の特別養護老人ホームでは、濃厚接触者になったスタッフが復帰の際などにキットを利用している。国の基準に基

【抗原検査】新型コロナウイルスの感染を調べる方法の一つ。厚生労働省が承認した「医療用」キットは、鼻の粘液を使って30〜40分ほどで判定できる。結果が出るのに数時間かかるPCR検査に比べて精度は低いが、その場で結果が分かるなど利便性が高い。ガイドラインに従った方法で医療従事者が使えば確定診断に使える。

オミクロン拡大 需要急増

抗原検査キットの不足の背景には、感染力の強い変異株「オミクロン株」の拡大がある。濃厚接触者や発熱した人に公費で実施する行政検査の急増に加え、感染への不安を感じる人が民間検査機関や薬局の無料検査などに殺到。さらに、濃厚接触者となったエッセンシャルワーカーの待機期間短縮の際や、大規模イベント参加時の検査など、キットの用途が広がっていることも不足に拍車をかけている。

1日約30人に検査を行う京都市伏見区の羽束師クリニックでは1月中旬からコロナ疑い患者が急増。確保していた70回分は、日に

品薄解消に数週間か

いったん底をついたが何とか同日中に10回分を新たに入手できた。小川一也院長（68）は「キットがなくなれば、発熱外来を中止せざるをえない。綱渡り状態だ」と話す。こうした状況に、政府は医療機関の検査負担軽減のため、症状があっても重症化リスクが低い人は、検査キットなどで自ら検査をした上で受診すれば、医師の判断で再検査をせずに確定診断ができるとする対策を発表。大阪府などはこの仕組みを導入した。しかし、自分で検査するにもキットが必要で、品薄状態の中で入手できるかも課題となる。

政府は行政検査を行う医療機関や自治体に優先的に供給する方針を決定。検査キットのメーカーにも1日あたり80万回分までの増産を要請した。診断用医薬品メーカーのタウンス（静岡県伊豆の国市）は2月上旬から工場を夜間も操業し、生産量を最大2倍にすることを目指すという。政府は全国的な品薄の解消には数週間かかるとしている。